

令和8年度 駒込中学校 経営方針

本年度の方向性

自らの思考

適切な行動

達成感と改善意欲

身に着けた思考力・行動力を発信し、自他ともに成長する意識を育てる

～学校教育目標～

広く社会や世界に目を向け、広い視野をもち、社会に貢献できる人間性豊かな生徒に成長することを目指す。
・よく考え、自主的に学習する生徒に育てる。
・思いやりがあり、良く協力し、責任を果たす生徒に育てる。
・心身共にたくましく生きる生徒に育てる。

自らを正しく導き、社会に貢献できる「真の実践力」の育成

- ・自らの思考を明確にもち、適切に行動するなかで、わかりやすく発信表現するとともに、他者の思いも理解し、人とのつながりや関わりの中で自らを正しく導こうとする、「真の実践力を向上」を目指す。
- ・「自らが学習すること」は、自分のためであるとともに、社会のためであるとの、社会貢献意識を有する生徒の育成を目指す。
- ・家庭や地域、CS とともに共同体制を構築し、教育力の向上のための指導を展開し、魅力ある学校づくりを目指す。

知

- ・各授業において小集団における活動を設定し、対話的・協働的指導を展開することにより、個々の生徒の「発信力」を高める。
- ・高めた発信力をもとに自他の思考を深く検討・考察し、さらなる思考力・行動力向上につなげ、基礎的学力と深い学びの定着化を図る。
- ・授業では、毎時の目標を必ず提示するとともに「振り返り」を行い、生徒個々に自分の学習進捗状況と課題の把握、並びに到達達成感を味わうように指導する。
- ・教育活動全般において、ICT を活用し、デジタル化のメリットを十分に生かすとともに、アナログの利点も生かした指導展開を意識する。
- ・評価に関して研修を深め、社会の変化に対応し、評価評定に関する信頼性を高める評価計画を適切に作成、実施する。
- ・学びと社会貢献意識の一体化を目指し、キャリア教育の観点では、職業・キャリアの視点だけでなく、社会貢献意識について学び、理解する機会をとらえる。
- ・地域の人々や小学校等との連携・協働を深め、地域社会の発展に貢献する意識と実践力を向上させる。

徳

- ・「あいさつ」は単に礼儀ではなく、自他の存在を互いに認める人権尊重意識の基本と捉え、励行するよう指導するとともに、社会のスタンダードである「先言後礼」の徹底を図る。
- ・特別の教科道徳を始め、教育活動全般において多くの発表の場を設定し、自分の思考を適切に表現し、思考力・判断力と表現・発信力の向上を図る。
- ・様々な行事について、自らの心を見つめ、人とのつながりの中で自分を考え、自ら行動する機会と捉え、心を育てることを目標に活性化させる。
- ・文化や芸術に触れる機会を重視し、自らの感性を豊かにする意識を育成する。
- ・組織的ないじめ撲滅の初期対応を徹底するために、アンケートを活用するとともに、学校関係者全員の「気づき」を大切にする。また、生徒自らが話し合いや意思の発信を行うなど、いじめ防止の取り組みを進める。
- ・不登校対策については、さくらルームの機能を向上させ、個々の生徒に寄り添いながら、安心感と安定感のもと、生徒自らが行動につなげられるように指導展開する。
- ・特別支援に関しては、特別支援教育コーディネーター及び巡回指導員を中心とし、校内委員会における情報の交換や個に応じた適切な指導に関して、指導の工夫を共有する。
- ・個々の生徒の状況に応じ、SCやSSW、その他児相や警察などの関係機関との連携に関して、さらに迅速化するとともに一層深化させ、「安定した心」を育てる。

体

- ・運動に親しむ能力や態度を育成し、自らの健康を考え、行動できる生徒を育てるとともに、教師自ら範を示し、最後までやり抜く体力・気力を鍛える態度を示す。
- ・生活上の危険を自ら排除する意識を高めるとともに、食の安全にも配慮し、個々の体調や状況に応じた食の提供を図る。
- ・保健衛生や健康に関する教育活動を重視し、生涯を通して健康について意識し、適切に生活する思考を培う。
- ・体育的行事や健康に関する委員会活動等を生徒自ら運営し、主体的な健康安全活動に対する活動を推進する。
- ・部活動においては、努力の成果や達成感、文化部では活動のクオリティー向上を目指し、生徒個々の安全な「居場所」としての役割を持たせる。また、現存部活の活動継続並びに職員の負担軽減のため、活動日程や内容などを工夫する。